

# 目 次

<b>I はじめに</b>	1
1 研究の経緯	
2 研究の意図	
<b>II 提案授業の実践</b>	1
1 小単元名	
2 学習指導要領の目標及び内容の分析	
3 児童の実態	
4 小単元の単元構想	
5 小単元の目標と評価規準	
6 小単元の学習内容構造図	
7 小単元の基本的な指導計画と評価計画	
8 本時の展開	
9 実践の記録	
<b>III 研究の成果と今後の課題</b>	8
1 研究の成果	
2 今後の課題	
<b>IV 資料編</b>	10
1 説明資料	
2 写真資料	
3 まとめ新聞の枠組	
4 作成見本新聞	
5 児童の作品	

## インクルーシブ教育推進に向けた個に応じた支援 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援の工夫～

提案者 栃教協教研推進委員会特別支援教育部  
足利市立北郷小学校教諭 加藤 里実

### I はじめに

#### 1 研究の経緯

今日、特別支援教育においては、合理的配慮のもと、インクルーシブ教育システムの構築が推進されてきた。その中の課題の1つとして、様々な個性や能力をもった児童生徒がいる学級において、すべての児童生徒にとって取り組みやすく、満足感が得られる授業をどのように作り上げていけばよいのか、ということがあげられる。

そこで本部会では、昨年度に引き続き、通常の学級におけるユニバーサルデザインの視点（見通し 視覚化 焦点化 共有化）を取り入れた授業の実践例を提案することで、今後のインクルーシブ教育システム構築の更なる推進に向けて役立てていきたいと考えた。

#### 2 研究の意図

昨年度の授業実践では、家庭科の授業、特に製作活動時において見通しをもち、安心して取り組める授業の方策を提案した。

今年度は、授業で多く見受けられる、学習したことを「どうまとめたらよいか」について戸惑っている児童への支援に焦点を当てることにした。そこで、まとめ学習として新聞作成を行っている社会科の授業において、学級担任をT2とした個々の児童への支援や、まとめ学習に役立つ補助資料の工夫などについて研究・実践を行うことにした。このことにより、支援の必要な児童に加え、意欲の高い児童もより一層興味をもち、多様な表現に挑戦し、達成感の得られる「嗜みごたえのある授業」を展開することができるのではないかと考えた。

### II 提案授業の実践

#### 1 小単元名 県の人びとのくらし

#### 2 学習指導要領の目標及び内容の分析

本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の目標(3)を受けて、内容(6)について扱うものである。

##### 1 目標

(3) 地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的な資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

## 2 内容

- (6) 県(都、道、府)の様子について、次のことを資料を活用したり白地図にまとめたりして調べ、県(都、道、府)の特色を考えるようにする。  
ウ 県(都、道、府)内の特色ある地域の人々の生活

本単元の学習は、栃木県内の特色ある地域として観光等の産業の発展に努めている日光市を取り上げて調べることで、人々の暮らしについて考えさせることを目標としている。

世界遺産の二社一寺のある日光市は、歴史ある都市であるとともに、年間約9000万人(平成28年度)の観光客が訪れる観光地でもある。足利市も足利学校をはじめ歴史ある観光都市であるが、平成28年度の観光客(約400万人)は日光市ほどではない。そんな日光市の自然や歴史、観光などを足利市と比較しながら取り上げることで、児童一人一人が身近なものとして捉え、そこに暮らす人々の生活を想像しながら、進んで調べ、まとめていけるような態度を育てていきたい。

## 3 児童の実態(男子16名 女子17名 計33名 支援学級在籍2名)

### (1) 児童の実態

社会科学習における実態調査をした結果(11月実施)、88%の児童が「社会が好き(やや好きを含む)」と回答している。中でも児童が楽しみにしている学習活動は、「見学・体験学習」が91%、「インターネットや本を使った調べ学習」が97%であった。一方、「新聞等に調べたことをまとめた学習」については、肯定的な回答が45%、否定的な回答が55%と二極化した。好きと答えた児童の主な理由は「自分の勉強になる」「みんなの作ったものが見られる」など、まとめた作品を友達と共有し合うことを楽しみにしていることがわかる。また、きらいと答えた児童の主な理由は「何を書けばよいのかわからない」「考えたり文章にしたりすることが苦手」など、まとめる際に様々な面でつまずいていることがわかった。そこで、本単元では、どの児童にとっても満足のできるまとめ学習になるように支援をしたいと考えた。

### (2) 対象児のよさについて

対象児	「よさ」について
特別支援学級児童A	交流学級でみんなと学習することは好きで、社会科の学習も楽しみにしている。自分の考えをもつことが難しいが、教師と対話をするうちに、自ら考えるようになり、自信をもって取り組めるようになる。
通常の学級児童B	活動を伴う学習を好み、課題には最後まで取り組むことができる。社会科はあまり好きではない。新聞にまとめる学習は、個別に話しかけ、やることがわかると自ら取り組むようになる。

## 4 小単元の単元構想

### (1) 授業研究の意図

通常の学級には様々な児童生徒が混在し、近年は、いわゆるパステルゾーン(グレーゾーン)と呼ばれる児童生徒も増えてきている。これらの児童生徒は、一度にたくさんの指示があると理解しづらいことで見通しがもてず、不安になってしま

という傾向が見られる。そのため教員は、どの児童生徒にもわかりやすい授業を行おうと努力している反面、通常の学級では、全員が一つのめあてに向かって取り組まなくてはならないため、苦労している現状がある。一方、特別支援学級では、一人一人の実態から個々のめあてを立てて、子供の学びを深める方策を用いている。そこで、ユニバーサルデザインの視点（「見通し」「視覚化」「焦点化」「共有化」）を取り入れることで、どの児童生徒にもよりわかりやすく、達成感のある授業が展開でき、児童生徒の「やってみたい」という気持ちを喚起することにつながるのではないかと考え、この授業を設定した。

## (2) 授業展開の工夫

本授業では、子供たちに見通しをもたせ、視覚化・焦点化・共有化を意識して授業を展開していくように工夫した。また、多様な資料から情報を収集・選択して読み取ったり、読み取った情報を分類整理してまとめたりする技能の育成も図りたい。そこで、展開のそれぞれの段階において、具体的な取組を次のように工夫した。

### ○導入 見通しをもたせることで児童の不安感を軽減する工夫

まとめる学習において、書くのが苦手な児童に対して「どこに」「何を」「どうまとめる」のかを明示する。→ 本時の学習意欲を高めることにつながる。

### ○展開 教材の工夫

様々な種類の新聞枠、サポート資料（説明資料）、文例等を用意、各々での選択 → このことが、安心感につながる。

### ○終末 「わかった」「できた」ことを友達と共有化する工夫

→ 次時への意欲付けにつながる。

## (3) 授業形態の工夫

本授業では、T1とT2の連携により展開していく。

## 5 小単元の目標と評価規準

### (1) 小単元の目標

県内の特色ある地域の様子を意欲的に調べ、栃木県の特色やよさに気付き、郷土に対する誇りと愛着をもつことができる。

### (2) 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・ 表現	観察・資料活用の技 能	社会的事象につい ての知識・理解
県内の特色ある 地域の様子などに 関心をもち、意欲 的に調べている。	栃木県内の特色あ る地域について、そ こに見られる人々の 生活の特色やよさに ついて考え、調べた ことや考えたことを 適切に表現している。	栃木県内の特色あ る地域の人々の生活 を、地図を活用した り、資料を収集・活 用したりして具体的 に調べ、調べた課題 や結果を新聞などに まとめている。	栃木県内の特色 ある地域の人々の 生活の様子を理解 している。

## 6 小単元の学習内容構造図

### 学習問題

日光市の豊かな自然や世界遺産は、どのようにして守られたり、生かされたりしているのでしょうか。



本小単元で総合的に捉えさせたいこと（概念的知識）

地域の人々は、豊かな自然や世界遺産を次の世代に受け継ごうと、保護・活用のために努力や工夫を重ね、みんなで協力して大切に守っている。

## 7 小単元の基本的な指導計画と評価計画（総時数 6 時間）

過程	時間	ね ら い	主な学習活動	教師の支援と評価(◇)
つかむ・見通す	1	○日光市について自然や伝統、文化や自然遺産の写真を見て気付いたことを話し合う。 ○学習の問題を考え、日光市について効果的にまとめる。	・日光市についてどんな市か予想する。 ・日光市のビデオから、さらに調べてみたいことを考える。	【関心・意欲・態度】 ◇日光市について関心をもち、学習問題を考えようとしている。
		日光市の自然、遺産、観光について調べ、人々の努力や工夫について考え、わかったことをまとめることができる。		
調べる	2	○日光の自然について知る。もっと知りたいことを調べる。	・ビデオの一部から概要を知る。 ・足利市の地形や自然と比べることで、日光市の生活の様子を想像できるようにする。	【思考・判断・表現】 【知識・理解】 ◇日光市の自然について理解し、調べることができる (発言・ワークシート)
	3	○日光の遺産について知る。もっと知りたいこと調べる。	・世界遺産を保護するため努力や工夫をしている人々について考えさせる。	【思考・判断・表現】 【知識・理解】 ◇日光市の遺産について理解し、調べることができる (発言・ワークシート)
	4	○日光市の観光について知る。もっと知りたいことを調べる。	・市を活性化するために努力や工夫をしている人々について考えさせる。	【思考・判断・表現】 【知識・理解】 ◇日光市の観光について理解し、調べることができる (発言・ワークシート)
	5・6	○まとめ	・足利市と比較して、共通点、相違点、感想などを書かせ、自然環境や文化遺産、伝統を保護・活用する人々の努力や工夫などについて気付かせる。	【思考・判断・表現】 ◇調べてわかったことや考えたことを新聞にまとめることができる。 (発言・新聞)

## 8 本時の展開（5／6）

### 【目標】

- 学習したことや考えたことを新聞にまとめることができる。（社会的な思考・判断・表現）

Ⓐ見通し Ⓛ視覚化 Ⓜ焦点化 Ⓝ共有化 Ⓞ人権教育の視点

段階	主な学習活動	教師の支援 T 1	特に配慮を要する児童への支援 T 2
導入	1 前時までの学習を振り返る • 日光市の「自然」「観光」「遺産」について 2 本時のめあてを確認する	Ⓛ何人かに発表させ、学んだことを想起させる。 Ⓛめあてを黒板に明示する。	Ⓛ写真やノート、資料で確認させる。 Ⓜ「自然」「観光」「遺産」という言葉を示して想起させる。 Ⓝ一緒に音読して確認させる。
	日光市について学習したことと新聞にまとめよう。		
展開	3 新聞を作る ○新聞作りのヒントを知る • 新聞の枠を選ぶ • 内容・見出しを考える • 写真・絵・グラフ等を決める • 人々の工夫を考える • 感想を考える • 文章を書く	Ⓛ枠の見本を3種類示す。 Ⓛ複数の完成見本新聞を掲示する。 Ⓜ「3つの内容」と「まとめ」を入れることを知らせる。 Ⓛ枠と内容のどちらを先に選んでもよいことを知らせる。 Ⓜ児童によっては、枠の罫線を自由に引いてもよいことを知らせる。 Ⓜ「自然」「観光」「遺産」にポイントを絞らせる。 Ⓜ関わっている人々の工夫や努力に目を向けさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">学習したことや考えたことを新聞にまとめている。 【社会的な思考・判断・表現】 (行動観察・作品)</div>	A B : サンプルと一緒に見に行って確認させる A B : 複数の完成見本新聞の違いと一緒に確認させる。 A B : 3つの内容について確認させる。 Ⓛ枠を先に選ぶように支援する。枠の種類は、本人の意志を尊重する。 A : 写真を先に選ばせる B : テーマを先に選ばせる。 A B : 写真やノート、資料を用いて確認させる。 A B : 思いついた言葉を述べさせる。 A B : 内容について問い合わせながらまとめさせる。
終末	4 学習の振り返りをする	Ⓛ近くの児童と新聞を見せるように声をかける。 Ⓞ友達のよいところを認めあえるように助言する。 Ⓜ情報交換をさせ、工夫した点や取り入れたい点、次時に頑張りたい点などをメモしておくように声をかける。	Ⓜ一緒にあって、工夫した点や取り入れたい点、次時に頑張りたい点などについて、問い合わせながら、メモを取らせる。

## 9 実践の記録

	全 体	A 児	B 児
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>• T 1 が提示する日光市の写真を見て、「<u>華厳の滝</u>」「<u>東照宮</u>」などと答える。</li> <li>• 本時のめあてや新聞の書き方など、T 1 の説明を静かに聞いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 不安そうに T 2 を見る。以前まで使用していた写真資料を見てもよいことを伝えると、「見ていいんだ。」とつぶやく。隣の席の児童にも「見ていいんだって。」と話しかける。</li> <li>• T 1 の提示する写真を見て、手元の資料で確認している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• だまつて写真を見ている。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 3 種類の新聞枠から、自分の書いたい新聞枠を選ぶ。</li> <li>• 用紙に記事を書く。</li> <li>• 完成見本を見にいく。</li> <li>• 完成見本を見ながら、どこに何を書くか、友達と話している。</li> <li>• わからないことがあるときには T 1 や T 2 に質問する。</li> <li>• 集中して取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• T 2 と完成見本を見て、それぞれの枠の違いを確認し、自分で枠を選ぶ。</li> <li>• 資料の中から<u>気に入った写真</u>を 3 つ選ぶよう T 2 に声をかけられ、「<u>中禅寺湖</u>」「<u>華厳の滝</u>」「<u>サルヘ餌やり禁止のポスター</u>」を選んで丸をつける。</li> <li>• <u>選んだ写真</u>を用紙の写真枠に貼るよう T 2 に声をかけられ、「<u>中禅寺湖</u>」の写真をゆっくり慎重にはさみで切り取り始める。</li> <li>• 切っている途中で、別の資料にあるより大きい写真を切り取るよう T 2 に声をかけられ、苛立ちを見せるが、すぐに作業に移る。</li> <li>• 「<u>中禅寺湖</u>」の写真が貼れたところで、写真の下に「<u>中禅寺湖</u>」と書くよう T 2 に指示を受け、「<u>中禅寺湖</u>」と書く。</li> <li>• 「<u>華厳の滝</u>」についても、<u>同様の手順</u>で集中して取り組む。</li> <li>• 「<u>サルヘ餌やり禁止のポスター</u>」を切り抜く際に、曲がっててしまい焦った様子だが、何とか切り取れて「オッケー。」とつぶやく。しかし、<u>写真枠</u>に貼ろうとしたところ、枠にうまく合わなかったため、「<u>日光のホテル</u>」の写真に取り替える。</li> <li>• 3 枚写真が貼れたところで、T 1 から文章を書くよう声をかけられ、資料を見ている。</li> <li>• 何を書こうか戸惑っていたところ、<u>完成見本</u>を見にいこうと T 2 から声をかけられ、見出しや文章の書き方を一緒に確認する。完成見本に「<u>中禅寺湖</u>」のことが書いてあることに気付くと「パクッていいの?」とつぶやく。</li> <li>• 席に戻り、資料を見ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• T 2 から何を書くのか聞かれ「<u>温泉</u>」と答える。「行ったことがあるんだよね。」と嬉しそうに話す。</li> <li>• 資料の説明を用紙に写している。</li> <li>• 举手をして、資料の漢字の読み方を T 1 や T 2 に聞く。</li> <li>• 1 つ目の記事が書けたところで写真を切り抜いて貼る。</li> <li>• 記事と写真の他に、空いた枠に何を書けばいいのか T 2 に尋ねる。一緒に<u>完成見本</u>を見にいき、「わかった。」と言って席に戻る。見出しと写真の名前を書き込む。</li> <li>• 残り 2 つの記事を書き始める。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友達の作品を見て回る。</li> <li>• 友達の書いた新聞を見ながら、話をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 身体をゆすりながら落ち着かない様子で近くの友達の新聞を見ている。</li> <li>• 友達の作品を見ながら、T 1 から書き方の説明を聞いている。</li> <li>• 同じ記事を書いている作品を見るよう T 2 に声をかけられ、じっくりと見ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ふらふらと歩き回りながら、みんなの作品を見て回る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• T 1 の「<u>友達の書いた新聞を見て、いいなと思った人はいますか。</u>」という問いに、举手をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• T 1 の問い合わせに举手をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 举手をせずに T 1 を見てる。</li> </ul>

### III 研究の成果と今後の課題

#### 1 研究の成果

##### (1) 補助資料の工夫

###### ① 説明資料の工夫

- ・社会科の授業で第3学年及び第4学年において、県内の特色ある地域についての学習を行うに当たり、副読本を用いて学習を行っている。それらは、地区ごとに編纂されたその地区独自のものであるため、同じ「日光市」を扱っていてもその内容はさまざまである。そこで、県内各地の副読本を集め、独自の説明資料を作った。児童は多くの情報や写真を用いて学習することができ、より興味深く、深い学びを得ることができた。

###### ② 写真資料の工夫

- ・児童の興味関心を得るために、より多岐に渡った写真資料を独自に集めた。更に、実際の授業においては、児童一人一人にカラー印刷をして配付した。まとめ新聞作成を行う際には、幅広い情報とカラフルな写真に触れ、より意欲的に取り組むことができた。
- ・新聞を作成するに当たり、写真を切り取る必要があったために、説明資料と同じ写真が切り取れるように、写真のみの資料を児童一人一人に配付した。

###### ③ まとめ新聞の枠組みの工夫

- ・個々の実態や考えに応じられるように、枠のみのもの、3段に分かれているもの、写真枠と罫線とタイトル枠が指定されているものの3種類を作成した。児童は各自の興味関心に応じて選択し、新聞作成にスムーズに取りかかることができた。

###### ④ 完成見本新聞の工夫

- ・3種類の枠組ごとの完成例を常時前面の黒板に提示した。そうすることで、児童がそれぞれの枠の活用の仕方をイメージすることができた。
- ・カラフルに作成された見本を見て、色ペン等を使用して自分もきれいな新聞を作成したいという意欲が高まった。
- ・支援を必要とする児童は、完成例を見て見通しをもつことができた。また、意欲の高い児童は、更にオリジナルのアイディアを出そうと何回も活用する姿が見られた。

##### (2) 授業の中での支援

###### ① 一斉指導における支援

###### ア 導入の仕方と板書の工夫

- ・本時の導入時に、「自然」「観光」「遺産」の3観点の拡大写真を提示し、視覚的に板書した。また、児童に問い合わせ、彼らの声を反映しながら既習事項を丁寧に振り返ったことで、前時までの学習内容が想起しやすくなり、新聞を作成する際のイメージをもつことができた。

#### イ 情報の共有化の場の設定

- 授業の終盤に、お互いに新聞を見合う時間を取り、情報を共有化する場を設けた。児童は、自分のこれまでの活動を肯定的に捉えたり、友達の記事を参考にしたりすることで、次時の新聞作りに意欲や目標をもつことができた。

#### ② 個の特性に応じた支援

##### ア 具体的な手順の提示

- 資料が多くて、自分の書くものが選べない児童に対しては、「気に入った写真を3つ選ぶ」ように指示した。興味のあるものから入ることで、作業の円滑性や意欲の持続が見られた。
- 「写真を切って、枠に貼る」ことを3回やるよう指示した。やることを明確に指示したことで、自信のない児童も落ち着いて取り組むことができた。
- 写真を選んでから、説明する文章を書くよう声をかけた。また、選んだ写真をもとに「記事が書けそう」かどうか、説明資料と一緒に照らし合わせて読んでいき、説明文を考えさせた。写真を見ることで、イメージが湧くことと、説明資料の文章を参考にすることで、文章を書く抵抗感が減った。

##### イ 安心させるための言葉かけ

- T2が特に配慮を要する児童に個々に声をかけ、前時の学習内容を写真やノート、説明資料で確認をさせた。児童の不安な気持ちが和らぎ、集中して授業に入った。
- 新聞記事を書く対象として「自然」「観光」「遺産」の3観点をカバーするといいと明確に伝えた上で、3観点をすべて書くのが難しい児童には、観点にはこだわらず、どれかに絞って書いてもよいと伝えた。児童は自分の関心のあるものを選び、安心して作業に取り組むことができた。
- 自分の書く記事の内容を考えることができず、書くことができない児童には、教師が作成した完成見本を参考にするよう声をかけた。完成見本を見に行く際にT2が同行し、どこにどのように書いたらよいのか説明するとともに、完成見本をまねして記事を書いてよいことを伝えると、児童は安心して自分の記事を書き始めた。

## 2 今後の課題

今回の研究では、個に応じた支援を学級全体に広げることですべての児童生徒が教科のねらいを達成し、満足できる授業を展開することができた。一方、授業を実践した中で、次のような児童の姿が見られた。

- 多く資料を用意したことで、作業スペースの確保と選定資料の保管場所に困る場面が見られた。
- 新聞枠と写真の大きさや縦横の違いがあったため、こだわりのある児童が戸惑う場面が見られた。

支援を要する児童については、関わる教師が常に個別の支援目標を意識し、授業の中で課題となる場面をクリアできたときに、その小さな成果を見取り、賞賛して児童

の自信につなげる取組を積み重ねていく必要があるであろう。

今回の研究を通して、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた支援が児童生徒全體にも有効であることがわかった。今後も様々な支援の在り方を模索し、それに伴う課題の解決を積み重ねることで、インクルーシブ教育システムの更なる構築へとつなげていければ、と考えている。

## IV 資料編

### 1 説明資料

#### 「自然」

**日光市の自然とそれを守る取り組み**

◇日光市の自然

教科書に出ていた鬼怒川、奥湯川の他にも日光市は豊かな自然に恵まれています。どのような自然が存在しているのか見てみましょう。

! 多の日光連山（にっこうれんざん）

日光市には、奥湯川、鬼怒川、女川をはじめとした日光連山が存在します。男体山は標高2,486mを誇り、日本百名山にも指定されています。

! 鬼怒川（きぬがわ） ! 奥湯川（おくゆのかわ） ! 大谷川（だいやがわ）

日光市では市内を鬼怒川、大谷川、渡良瀬川といった大きな川が流れています。それら人々の生活を支える重要な川となっています。

! 中禅寺湖（ちゅうぜんじこ） ! 薮ノ湖（ゆのこ） ! 五十里湖（いそりこ）

中禅寺湖は栃木県最大の湖です。その上流には温泉のお湯が流れ込む湯ノ湖があります。

五十里湖は鬼怒川の上流にあるダムによってつくられた湖です。日光市には他にもダムによってつくられたダム湖がいくつか存在しています。

! 小田代原（おだしきらはら） ! 菊の瀬（けくなのたき） ! 濑戸合瀬（せとあいせつ）

小田代原は、戦場ヶ原の西にある湿地です。めずらしい植物の宝庫となっています。草叢の湖は、97mも落差のある滝です。中禅寺湖から流れ出した水はこの草叢の滝を越えて、大谷川へと流れこみます。瀬戸合瀬は、鬼怒川の上流にある紅葉が美しい峡谷です。

これらの豊かな自然を守るために、次のような努力が行われています。

◇自然を守る取り組み

①動物から自然を守る取り組み

! 潜伏する飛来する野生のシカ ! 野生動物進入防止 ! ワンウェードア

上の写真のとおり、柵内には野生動物がいます。これ以上増えないように、侵入防止などで、外から入らないようにしています。また、人が通る歩道には、バスの力で自動的に閉じるドアを設置しています。このドアは、外から動物が押しても開かないようになっています。

②植物を守る努力

! 小田代原の木道 ! 除害作戦に参加した人々のようす ! ハイブリッドバス

小田代原のめずらしい植物を保護するために、木道を設置して人が立ちづらいようにしています。また、日本に昔から生えていた植物が外国の植物によってほぼされないように、除害作戦が行われています。

他にも自動車の乗り入れを規制したり、自然にやさしいハイブリッドバスを使用したりすることで植物を守ろうとしています。

#### 「遺産」

**日光市の世界遺産**

◇世界遺産「日光の社寺」

日光市には1999年に世界遺産に登録された、「日光の社寺」があります。どのような遺産があるのか、見てきましょう。

①日光東照宮（にっことうとうしょうぐう）

! 東照宮大鳥居 ! 二重門

日光東照宮は江戸時代につくられました。江戸幕府をつくった徳川家康がまつられています。東照宮には瞬明門や五重塔など、さまざまな建物があります。それぞれに見事な彫刻がされています。特に「見ざる聞かざる言わざる」の三猿や眠り猫の彫刻はとても有名です。

! 日光東照宮の千人武者行列 ! かぶと、よろいをつけた武者行列

東照宮では春と秋に例大祭と呼ばれる大きな祭りが行われます。祭りでは千人武者行列が行われ、多くの観光客を喜ばせています。また、小学生も衣装を着てこの行列に参加するため、地元の小学校は特別な日課にすることとしてお祭りに協力しています。

! 二荒山神社（にここうさんたらさんじんじゃ） ! 伊勢

二荒山神社は、日光の山を神様としてまるる神社です。今から1,200年以上前に建てられました。この二荒の文から日光という地名が生まれたといわれています。

いろは坂をのぼったところに中宮祠と呼ばれるもう一つの神社があります。さらに、男体山の頂上にも神社があり、この三つはすべて二荒山神社です。

神様は世界遺産の入り口にある橋で、神様がかけてくれた橋という伝説が残っています。

②日光山輪王寺（にっこさんりんのうじ）

輪王寺は二荒山神社と同じ時期に作られたお寺です。

江戸時代には御簾によって支えられ、江戸幕府三代将軍徳川家光をまつた大師院（たいゆういん）という建物もあり、それも世界遺産に登録されています。

◇世界遺産を守る取り組み

二社一寺は、江戸時代から幕府による定期的修繕が行われてきました。現在では「日光社寺文化財保存会」が修繕を行っています。修繕の特長の一つは、建物に使われている漆や色付けを昔から変わっているやり方でしていることです。昔の技術を守り、未来へ引きついでいます。

! 二荒山の修復作業

## 「觀光」

日光市観光  
△観光におとずれる人たちのための工夫  
日光市には年間 600 万人（平成 25 年度）の人が観光をおとずれています。そういった観光におとずれる人たちのために日光市ではどのような工夫が行われているのでしょうか。

①世界遺産にふさわしい町づくり

1古い駅前のようす 1 JR 日光駅前の交差点（いろいじゅう） 1 まるい交差点（かいろとう）

日光市の駅前から神橋までは駅前町と呼ばています。多くの観光客が通過するこの町を世界遺産にふさわしい町にしようと努力している人たちが見え、平成 18 年 6 月に「日光東町みんなの町づくり」という団体がつくれました。その活動の輪が広がり、駅前町以外の地区も参加した平成 22 年 7 月に「日光駅前まちづくり」という団体がつくれました。

世界にはこれる町づくりということで、上の写真のように観光客の人にも喜んでもらえるような町づくりを行っています。

②充実した観光案内

2△充実した観光案内

ようこそ 世界遺産のまち 日光へ  
Welcome to Hikari, World Heritage site

外国人への観光案内

△観光客をむかえる看板

日光市は毎年、栃木県の人口の三倍にのる 600 万人前後の観光客がおとずれています。その中には多くの外国人がふくまれています。そのため、外国人向けに英語で看板がかかれていますし、外国人観光客に英語で観光案内を提供する「日光観光情報センター」がつくれられました。

また、観光用パンフレットは、英語、韓語、中国語などでも書かれていて、多くの外国人観光客に対応しています。

△みやげもの店やホテルの充実

1 日光のホテル 1 みやげもの店 1 日光

日光は多くの観光客のためにホテルやペンションなどがたくさんあります。写真のホテルは大谷川ぞいに今から 140 年前に建てられた古いホテルです。今でも多くの観光客が利用しています。

また、観光客向けのみやげもの店も充実しています。写真のみやげもの店は昔ながらの伝統の味を守る漬物店です。ほかにもうやせんべい、ようかんといった伝統的なおみやげを取りあつかい店で門前町を歩いてたくさんあります。

世界遺産を背うたてた彫刻家たちによってはじめられた日光日向の伝統的みやげものです。「ひっかき」という特別な三角刀を使ってほられたタンス、おほんなどは柿木原の伝統工芸品となっています。

④新しい取り組みと観光地を守る活動

4△新しい取り組みと観光地を守る活動

サルにえさを  
あげないでください

日光ばさつり

△観光客によびかけるチラシ

日光ばさつりは 2002 年より始まり、日光市の特産品であるばそを P するための祭りです。駅や周辺の駐車場からシャトルバスを出すことで祭りに多くの観光客がおとずれることができますようにしています。2016 年にはこの祭りに 9 万 2000 人の人がおとずれました。

一方で、観光客から食べ物をもらったりサルの人間にケガをさせることができたため、写真のようなチラシをつくりて観光客がサルにえさをあたえないように呼びかけています。観光地や観光客を守るために取り組みも多く行われています。

## 2 写真資料

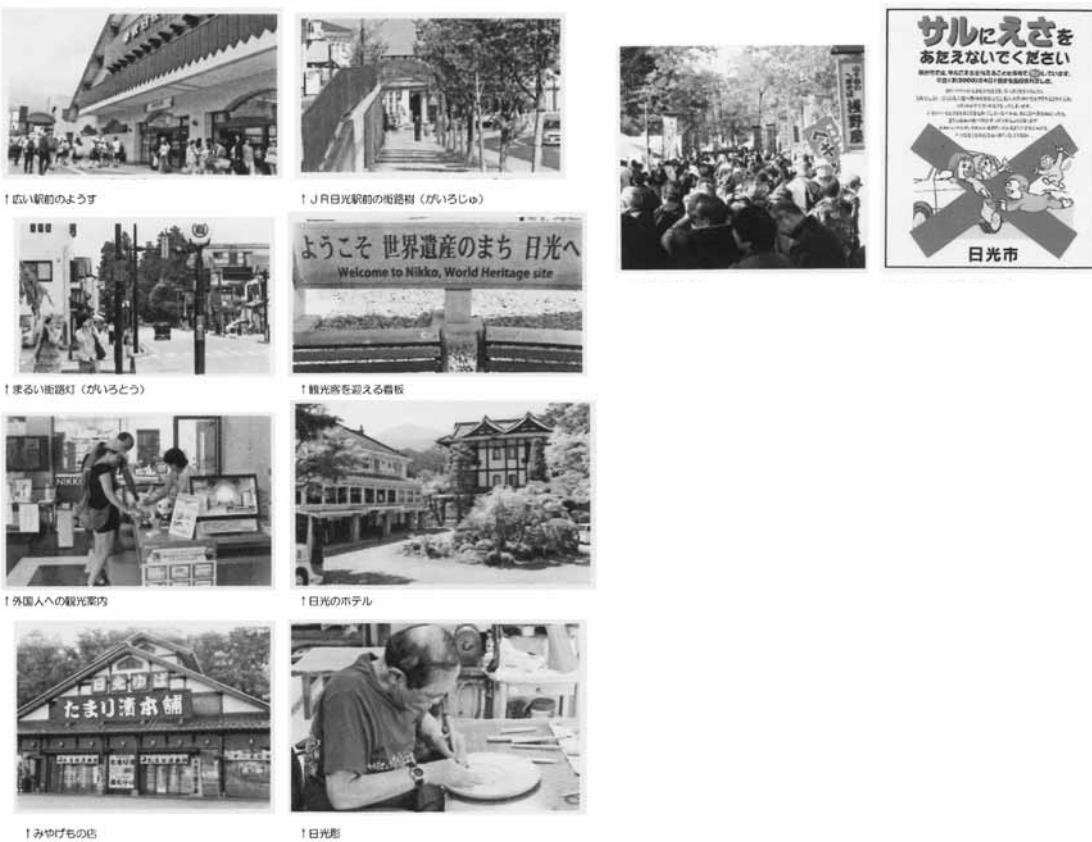
## 日光市の自然の写真



## 世界遺産写真

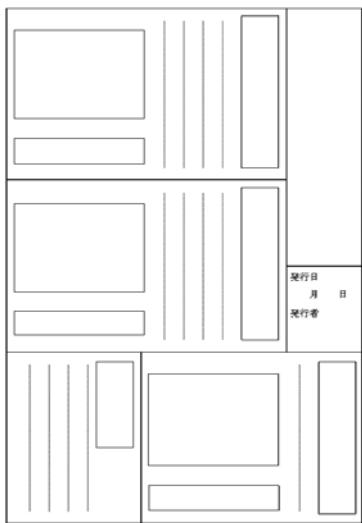


## 観光写真

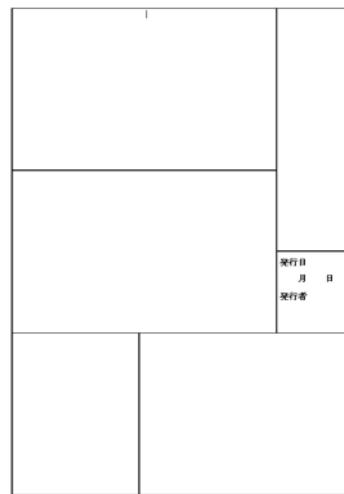


### 3まとめ新聞の枠組

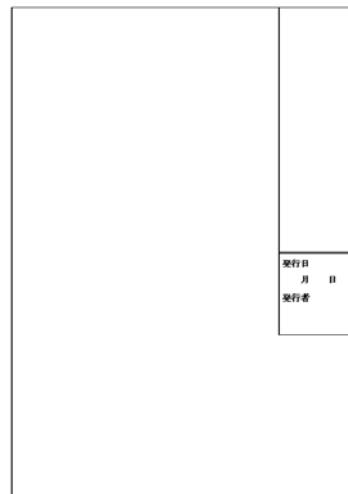
〔写真枠・タイトル枠〕



〔3段枠〕



〔枠のみ〕



### 4 作成見本新聞



## 5 児童の作品

